

題目：3R行動やごみ分別・減量行動と地域内外のつながりや情報接触との関連  
—札幌市における新ごみルール導入後の事例調査—

氏名：細谷 彬

指導教員：大沼 進

札幌市では2009年7月に新ごみルールが導入された。それにより、家庭ごみの収集区分の変更や燃やせるごみ・燃やせないごみの有料化などが実施された。しかし、ルールが変更されても、大切なのは実際にそのルールに従って人が行動することである。そこで新ごみルール導入で人の行動がどう変わったのかを調べる必要があるだろう。

本研究は、適正なごみ排出や3R行動といった環境配慮行動を行う人と行っていない人との違いがどこにあるのかを調べた。中でも、町内・町外ネットワークや地域へのアイデンティティーに着目し、これら2つの要因が環境配慮行動に関連していると仮定し、無作為抽出による標本調査を行った。

ネットワークと環境配慮行動の関連について、全体としてみるとネットワークが大きい人のほうが適正な排出や3R行動を実践していた。町内ネットワークのほうが町外ネットワークよりも強い効果を持っており、特に、適正排出や集団資源回収など町内などの地域を中心に行う活動で顕著だった。しかし、活動の場を地域に限らないような一部の3R行動では町外ネットワークのほうが強い効果を持つ行動もあった。

最後に適切に分別してごみ排出できないという行動の規定要因を調べたところ、「行動意図」だけでなく「習慣」もごみ排出行動に強く影響していた。そしてその「習慣」と「行動意図」を規定していたのは「実行可能性評価」、「主観的規範」、「記述的規範」、「態度」で、さらにこれらの要因に影響を与えていたのはネットワークや地域アイデンティティーだった。つまり、人の行動を強く規定しており、なかなか変えることのできない習慣という要因を変えるためにはネットワークや地域アイデンティティーが重要であることが明らかになった。

このようにごみ排出や3R行動にはネットワークやアイデンティティーが影響を与えていた。

本研究では、習慣という個人のレベルのものが、適切に分別できないという行動に影響を与えることを示した。しかし、このような習慣を変えるにはネットワークやアイデンティティーという人と人との関係が重要であることがわかった。またネットワークについては、行動の種類によってより効果的なネットワークの種類が異なることが明らかになった。